

集落のワガゴト化ツール 使い方マニュアル

令和7年(2025年)3月
兵庫県 企画部 地域振興課

目次

1. はじめに ー 集落のワガゴト化ツールとは
 2. 集落のワガゴト化ツール作成の流れ
 3. 「集落基礎データ集」の作成
 4. 「集落マップ」の作成
 5. 情報の一元化
- (参考) 集落での検証事例

はじめに ー集落のワガゴト化ツールとはー

集落のワガゴト化ツールとは

どんなツール？

地域住民自らが地域の現状や将来像を適切に把握・共有し、
地域の課題を「ジブンゴト」として捉える意識を醸成することを支援するツール

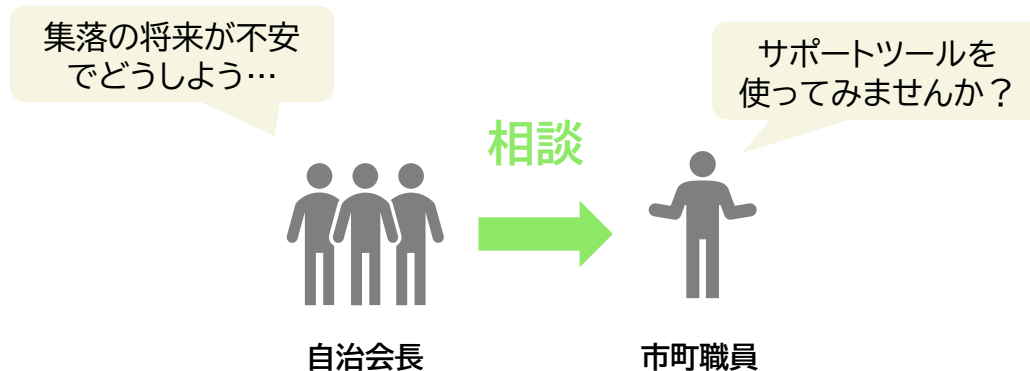
誰が使うの？

地域づくり支援者の皆さん
例えば…市町職員、多自然地域づくりアドバイザー、中間支援組織の方など

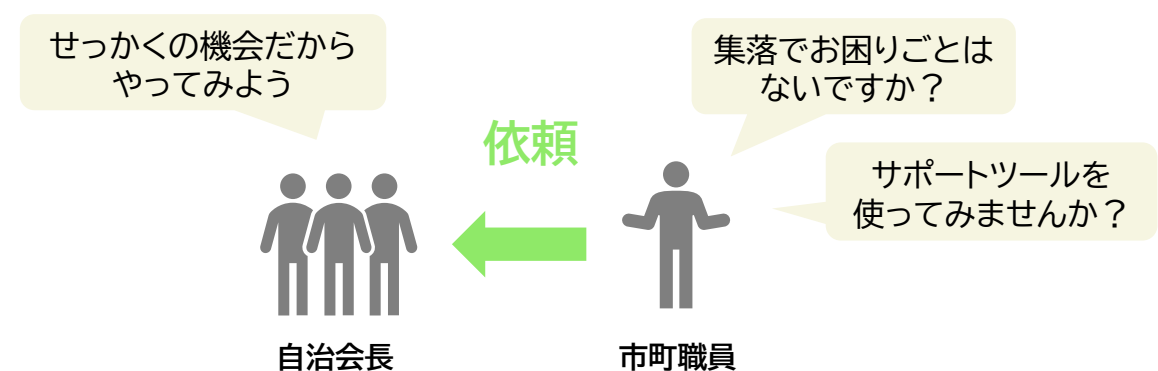
いつ使うの？

例えば…

【集落から相談や要望があった時】



【自治体が地域づくりの政策検討をしたい時】



どうやって使うの？

自治会長等と進め方を協議し、事前に集落の状況をヒアリングした後、
住民の方に集まってもらい、「**集落基礎データ集**」や「**集落マップ**」を作成

集落のワガゴト化ツールの目的

地域住民自らが地域の現状や将来像を適切に把握・共有し、
地域の課題を「ジブンゴト」として捉える意識を醸成することを支援する
ツールが「ワガゴト化ツール」です。

【目的】

- ① 「集落の現状」を見える化する(可視化する)
- ② 集落の方が「ジブンゴト」として集落のことを考え、
主体的に地域づくりを進める
ことが円滑に進められるように作成したもの(フォーマット)

【期待される効果】

- 関係機関と情報共有を図りながら、集落との連携を深める
- 「持続可能な地域づくり」の連携・協力体制を整備する
- 集落の現状を把握し、施策に展開する

集落のワガゴト化ツールの活用シーン

このツールは、

- 集落から相談や要望を受けたとき
 - 集落について、住民どうしてもっと理解したいとき
 - 支援者等が集落とコミュニケーションをとりたいとき
 - 地域づくりの施策検討をしたいとき
- などの場面において活用できます。



集落マップの作成の様子(朝来市)

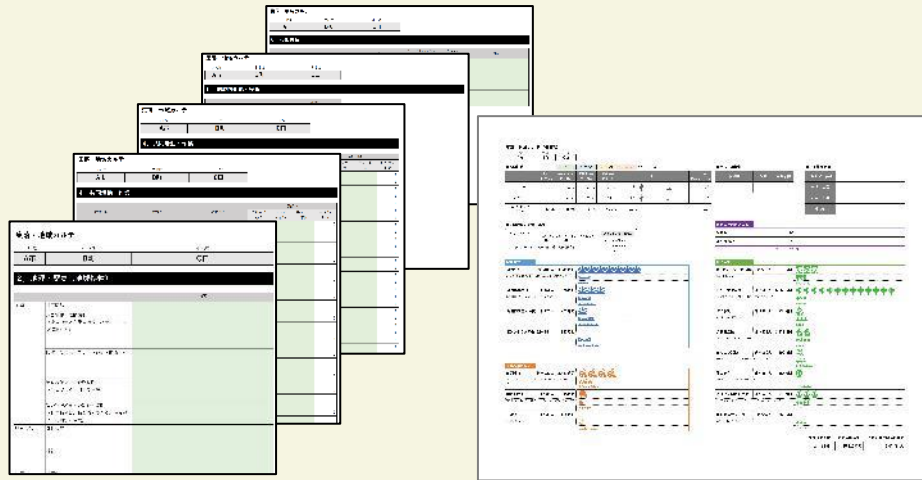


集落のワガゴト化ツール

集落のワガゴト化ツールとは、【A】 集落基礎データ集、【B】 集落マップの2種類を言います。

【A】 集落基礎データ集

集落の実情(人口、共同活動の様子など)を正確に把握し、住民のジブンゴト化を進める



【B】 集落マップ

「現在と10年後の集落の姿」を可視化し、住民の方に危機感を持っていただく



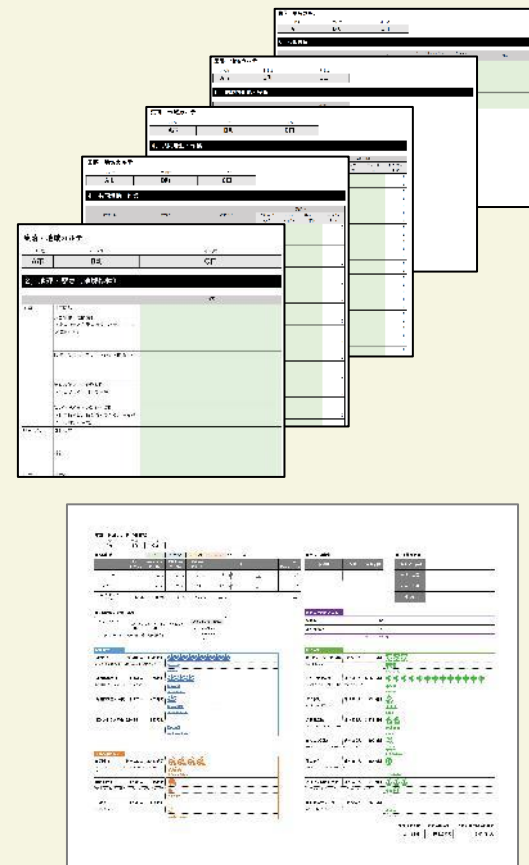
POINT!

- 集落のワガゴト化ツールは「作成すること」が目的ではありません。
地域で集まり「地域の現状やこれから」を話し合うきっかけとして、活用するものです。

【A】集落基礎データ集とは

【A】集落基礎データ集で収集(把握)する項目(例)

項目	内容(例)
ひと・人口構造	人口、年代、世帯、関係人口…
地理・歴史(地域特性)	地区面積、寺社、災害、住宅・空き家、交通…
地域施設	住民の共同管理施設・場所(公民館など)…
共同活動・作業	寄り合いの場、文化活動、防災活動、公民館活動、支え合い活動、環境維持活動…
地域内組織・役員	組織名、隣保・組編成、役職…
参加機会	女性、若者、外部人材の参加…
組織連携	広域や周辺の組織との連携…
資金資産	自治会費・区費、固定資産・預金…



※ 把握する項目の詳細は「2. 集落基礎データ集の作成」を参照

【B】集落マップとは

【B】集落マップで把握する項目(例)

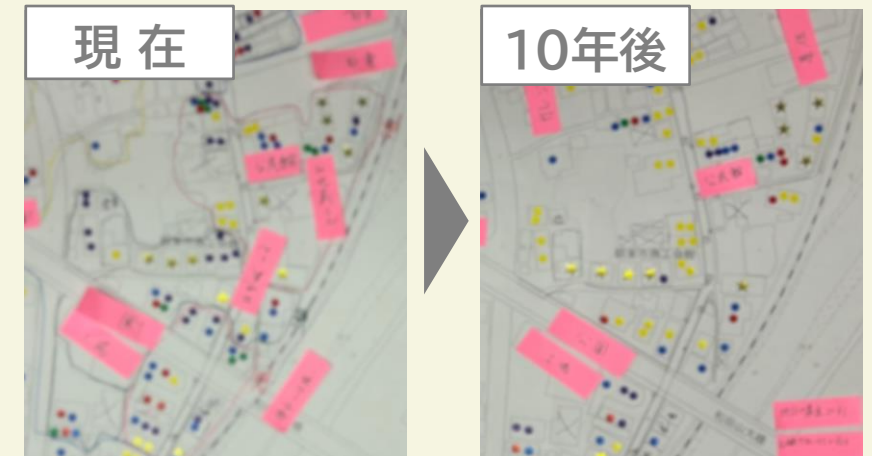
① 地図に書き込む情報

- | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| ☐ 世帯とその人数・年齢 | ☐ 隣保・組 | ☐ 地域施設・公共施設 |
| ☐ 空き家 | ☐ 農地の管理状況 | ☐ 寺社仏閣 |
| ☐ 危険個所 | ☐ 交通 等 | |

② 話し合いの中で確認していく項目

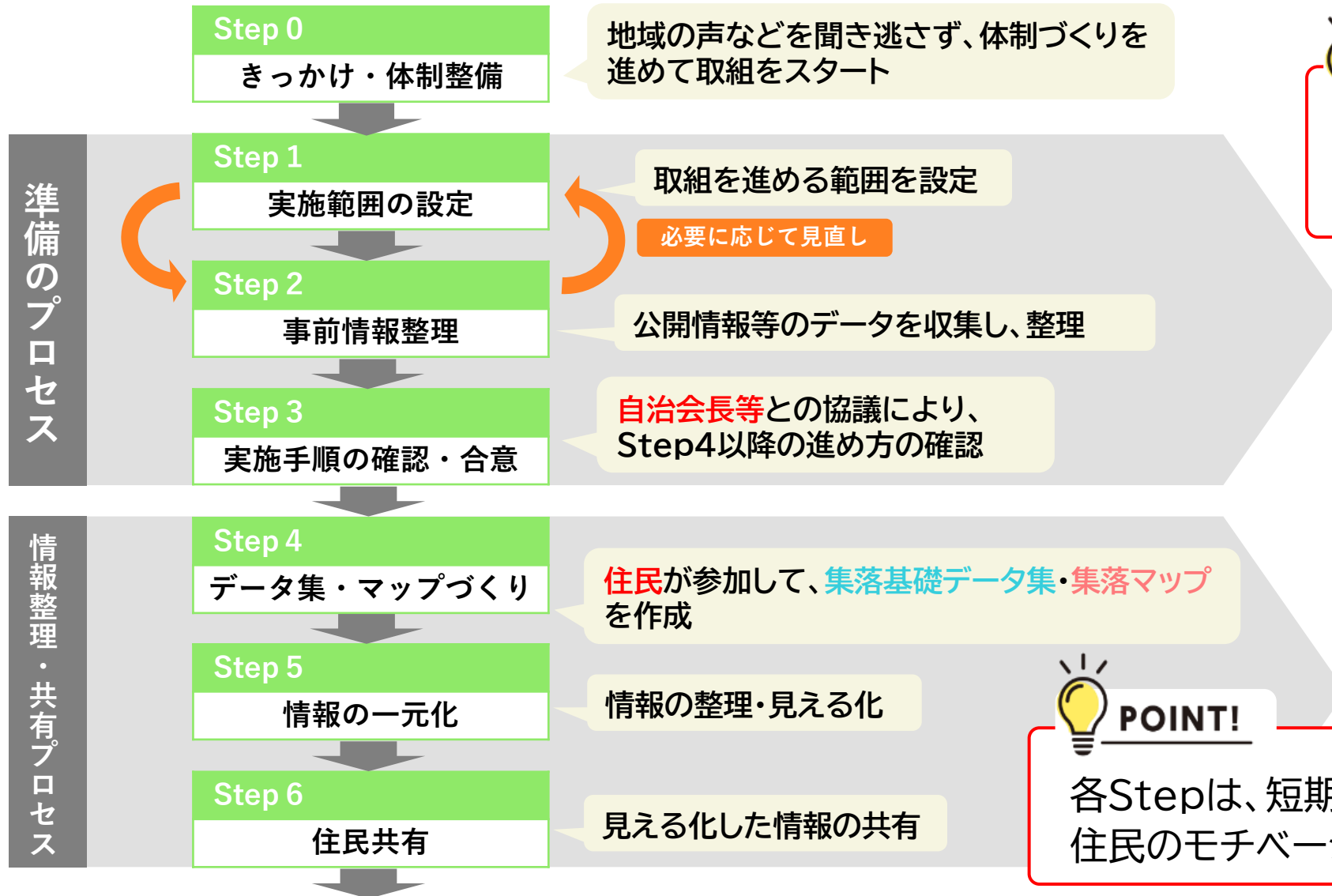
一地図をつくりつつ・眺めながら、以下の項目を話題にしながら、話し合う

- ☐ 現在の集落の役職・共同活動の内容など
- ☐ 将来について話し合う場・集落の行事・役職等の見直しや変更の有無・状況
- ☐ 集落で暮らしつ続けるために必要なこととそれらに対応し、集落で取り組んでいること
- ☐ 空き家や農地等の資産・土地利用の対応状況と意向
- ☐ その他、将来に向けて気になること・不安なこと・必要なこと
- ☐ 集落の魅力や強みなど



1. 集落のワガゴト化ツール作成の流れ

サポートツール作成の流れ



POINT!

準備プロセスを進めながら
支援体制を整えましょう



集落マップの作成の様子（朝来市）



POINT!

各Stepは、短期間で実施する方が、
住民のモチベーションが維持できます

課題整理、将来ビジョン等の検討へ

Step0 きっかけ・体制整備

1. 「取組のきっかけ」を逃さずに、戦略的な地域づくりに繋げましょう

●きっかけ①: 地域自治の制度づくり・見直し等の検討時

例: 地域運営組織の創設や見直しの実施
地域運営組織単位の長期計画の作成や改定
集落や地域運営組織の実態調査の実施および結果周知 など

●きっかけ②: 集落や地域の個別課題に対応した施策展開の検討時

例: 「空き家活用」や「移住者獲得」にむけた取組機運の醸成
「農地の将来像を描く地域計画」などの策定
「地区防災計画や災害発生後の復興計画」などの策定
「地域の重要施設の利活用」などの検討機会 など

●きっかけ③: 集落や地域からの個別相談の対応時

例: 相談対応をきっかけに、集落や地域全体の見直し支援に取り組む など

●きっかけ④: 集落の将来(今後)に向けた新たな支援施策・支援制度の検討時

例: 集落支援などの施策等の展開時に、地域に声かけする(地域からの手挙げ等を期待) など

Step0 きっかけ・体制整備

2. 戦略的な地域づくりへの支援にむけた市町の方針や事業計画等の策定・確認を行うとともに、市町各部署の支援者やファシリテーター間の横断的な支援体制づくりに繋げましょう

- **体制整備①：市町における集落・地域支援に向けた部署横断的な連絡・協議体制づくり**
集落・地域運営組織担当部署だけでなく、福祉や農林等、集落・地域持続可能性に関連するあらゆる部署が、情報共有・理解した会議体や情報共有体制を構築し、行政として横断的な集落課題に対応できる協議体制を作る。
例：住民自治支援横断連携会議の設置、地区ごとの庁内情報共有会議の開催 など
- **体制整備②：集落・地域にサポートツールを活用して支援に入る人材・体制の確保**
サポートツールの活用方法を理解し、集落へ実際に入り、取組を推進する支援人材を確保する。
新規人材に限らず、市町職員の担当者や関連する事業を担当する職員、社協や地域づくりに関わる民間組織など、幅広い視点で既存の人材や体制を活かす。
例：地域伴走支援者の育成プログラムの実施、支援人材・機関の雇用、生活支援コーディネーターや集落支援員との連携 など

Step1 実施範囲の設定

1.「持続可能な地域づくり」を念頭に、取組を進める実施範囲を設定しましょう

- 基本は集落単位で設定します。
- 集落の共同作業の状況や維持機能、地理的要因(周辺集落との距離等)、今後の施策の展開などを踏まえ、状況によっては複数集落、地域運営組織単位とします。
- 将来的な小規模化・高齢化の進展度合いにより、単一集落では維持が困難な場合は、継続可能となり得る複数集落で検討します(小学校区単位など)。

2.実施範囲は、集落や地域運営組織の代表等に「妥当性」を確認しましょう

- 地域・集落の客観的状況だけでなく、集落住民間の関係性、これまでの文化活動の関係性等も重要です。
- 集落の長や地域運営組織の事務局、また行政内の関係部署・担当者等にヒアリングや情報収集をし、政策展開や適切な支援に結び付く実施範囲の可能性を探ります。
- 設定した実施範囲について、関係する住民代表に、将来について考えていく範囲の妥当性について、「無理がないか」、「実態と乖離しないか(イメージできるか)」について、集落・地域運営組織の代表等へ確認します。

● 集落のワガゴト化ツールの作成パターン(例)

パターン	パターン選択の視点	作成手順（簡略標記）
①動機づけ・ 取り組み やすさを優先	- 住民への動機づけ(意欲・取組姿勢)を高めることを優先したい場合 - 集落情報が一定共有されている場合 - 集落の情報整理への負担に拒否反応や時間・手が取れない場合など	【B】集落マップ ⇒ 【A】集落基礎データ集 の順に作成
②情報整理 を優先	- 集落情報が十分に把握できていない・整理できていない場合 - 取組スケジュールに余裕がある場合 - 集落規模が一定程度大きく(あるいは複数集落で同時に取り組む)、全体像を把握する必要がある場合 など	【A】集落基礎データ集 ⇒ 【B】集落マップ の順に作成



POINT!

集落のワガゴト化ツールは、集落や地域の実情に応じて、カスタマイズして活用できます！



住民ワークショップの作成の様子
(朝来市)



住民ワークショップの作成の様子
(南あわじ市)

Step2 事前情報の整理

1. 実施範囲のデータを収集し、可能な範囲で【A】集落基礎データ集を作成しましょう

●手順①: 把握する項目を設定します

- ・「サポートツールを活用する目的」を踏まえて、把握する項目を検討し決定します。
- ・把握する項目をもとに、「集落基礎データ集」のフォーマットを準備します。

★把握する項目の詳細は
「2. 集落基礎データ集
の作成」を参照

●手順②: 「行政が保有している情報」、「統計情報(人口等のデータ)」を収集します

- ・関係各課から情報を入手します

●手順③: 集落・地域運営組織が保有している資料を事前に収集します

- ・地域でしかわからない情報は、地域に情報提供をお願いしましょう。
- ・資料で把握できないところは、自治会長等にヒアリングをして把握します。

2. 実施範囲のフィールドワークを行いましょう

- 集落基礎データ集の情報や、集落の地図をもとに、実施範囲を実際に見て回ります。
- 必要に応じて写真等を撮影し、Step4(データ集・地図づくり)などで活用します。

Step3 実施手順の確認・合意

【A】集落基礎データ集、【B】集落マップの作成方法を検討し、集落や地域運営組織の代表等の合意を取りましょう

★詳細は
「2. 集落基礎データ集の作成」
「3. 集落マップの作成」を参照

(決める内容)集落基礎データ集・集落マップの作成方法、開催日時・場所、主催者、参加対象者、呼びかける方法、呼びかけたい人など



地域の方が「集落の将来像に関心がない」、「地域活動が盛んでない」などの場合は、集落マップ作成を先に行い、地域の方に関心を持ってもらうきっかけづくりが重要です。

逆に、地域の方が「この集落を守りたい」、「何とかしたい」など意識が高い場合は、集落基礎データ集の作成を先に進めるなど、地域の実情に応じた進め方を検討してください。

Step4 集落基礎データ集・マップづくり

【A】集落基礎データ集

以下の手順で作成します

① 役員等への事前説明

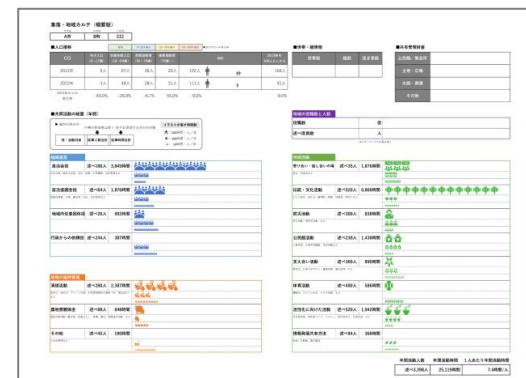
集落の役員等に、データ集の作成目的を丁寧に説明し、理解を得ます

② 役員等へのヒアリング

既存資料では把握できない項目は、役員等にヒアリングをして作成します

③ 概要版の作成

集めた情報は細かい情報も含むため、共同活動の内容を抜き出しが一目でわかるように、概要版(右記)を作成します



④ 住民ワークショップ

地域の方に集まってもらい、データ集の内容を確認し、必要に応じて、追記・修正します

※「ワークショップ」という言葉は、ツール上の便宜上使用しており、
集落に合わせた名称としましょう(例:寄り合い、話し合い、会合など)

⑤ 役員等への共有

データ集の最終版を役員等に報告・共有します

※集落の方が、自分たちで活用や更新していけることを想定します

Step4 集落基礎データ集・マップづくり

【B】集落マップ

以下の手順で作成します

① 役員等への事前説明

集落の役員等に、マップの作成目的を丁寧に説明し、理解を得ます

② グループの設定

地図を作成するグループを設定します
※グループは、組(隣保)単位、自治会単位など、話し合いやすい設定にします

③ 住民ワークショップ

地域の方に集まってもらい、マップを作成します



集落マップの作成の様子(南あわじ市)



POINT!

集落マップは、「将来地域の共同活動がどうなるか」を可視化するものです。

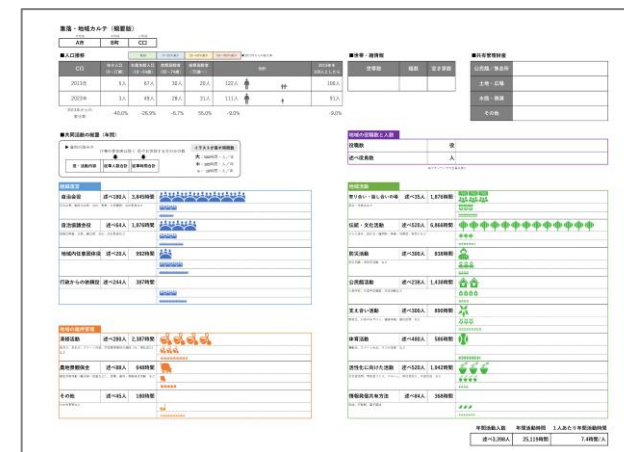
サポートツールを活用する目的に合わせて「草刈りなどの共同活動」、「共同活動を担う住民の方」、「地域で管理している資産(公民館やお寺など)」などを地図上に書き入れます。

Step5 情報の一元化

作成した【A】集落基礎データ集・【B】集落マップを取りまとめてデータ化し、
情報共有ができるよう整理しましょう

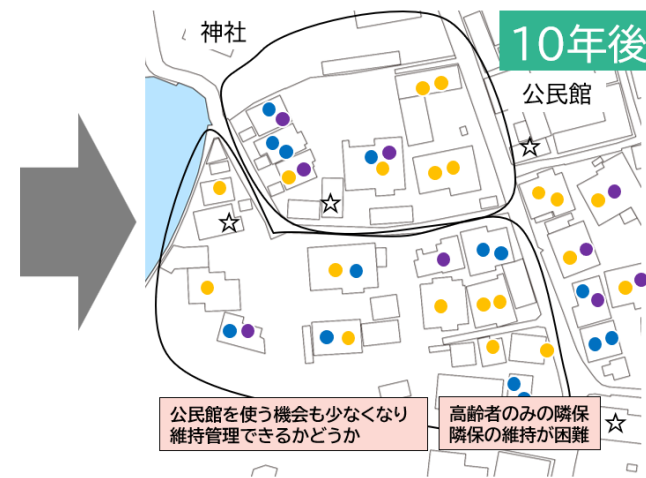
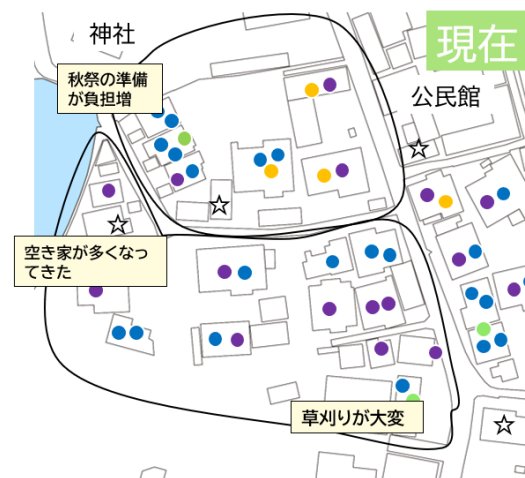
【A】集落基礎データ集

- 住民ワークショップでの話し合いの内容を踏まえて、
集落基礎データ集・概要版を見直し、完成させます。



【B】集落マップ

- 紙ベースで作成した集落マップを、
扱いやすいようにデータ化します。
- 貼られたシールの数をカウントし、
集落マップまとめシートを活用して
表やグラフで表現します。



Step6 住民共有

作成した集落基礎データ集・集落マップを、住民や関係者の方々に見てもらい、意見をもらいましょう

◆住民共有の方法(例)

- ①既存の地域・集落の会合で報告する
- ②報告会を実施する
- ③集落や地域の広告物に内容を掲載する
- ④新規の紙媒体(ニュース等)を発行する
- ⑤ウェブサイトやSNSなどを活用する

ニュースのイメージ



例：丹波ひとまち支援機構実施地域で作成されたもの
(原稿は住民作成)

2.「集落基礎データ集」の作成

●「把握する項目」の考え方

1.「見える化する目的」に合わせて設定

- 集落のワガゴト化ツールを活用する目的は、住民どうしが、集落の現状をもとに近い将来の姿を共有して、「今後難しくなること」、「必要となること」、「進路を話し合うこと」であることが多いと思います。
- そのための「目線合わせ」と「ロードマップの検討」につながるよう、項目を設定します。
※同一項目で定期的にチェック・点検することにより、集落の変化や適切な支援等の検討につながります。

2.「項目の優先順位(段階)」に合わせて設定

- 「見える化する項目」は多分野・多数となることから、優先順位を設定します。
- 「共通項目(75項目)」は必須項目とし、優先順位(段階)に合わせて、項目を設定します。

3.「集落の特性」を参考にして設定

- 「市街地や農村部など、集落の特性や成り立ちにより、共同活動の内容、把握する項目は異なります。
- 「集落の特性」に合わせて、項目の取捨選択を行うなどにより、項目を設定します。
※次ページに、集落の特性に応じて分類化していますが、特性に応じてカスタマイズしてご活用ください。

● データの収集(把握)方法

1. 人口は「住民基本台帳」を用いる

- 国勢調査では、設定した集落の範囲の人口を正確に出すのが困難なため、「住民基本台帳」を用いることを推奨します。

2. 行政保有情報を複数部署と効率的に確認できる体制・手法の検討を推奨

- 農地や山林の他、福祉など、複数部署に関わるデータが必要となりますが、毎回個別に確認しては各部署の作業負担が大きくなります。
- 行政として、地域情報を一元的に把握できる方法、データ管理などの今後も見据えて整備することが望めます。

3. 地域の情報は、集落運営組織に聞く

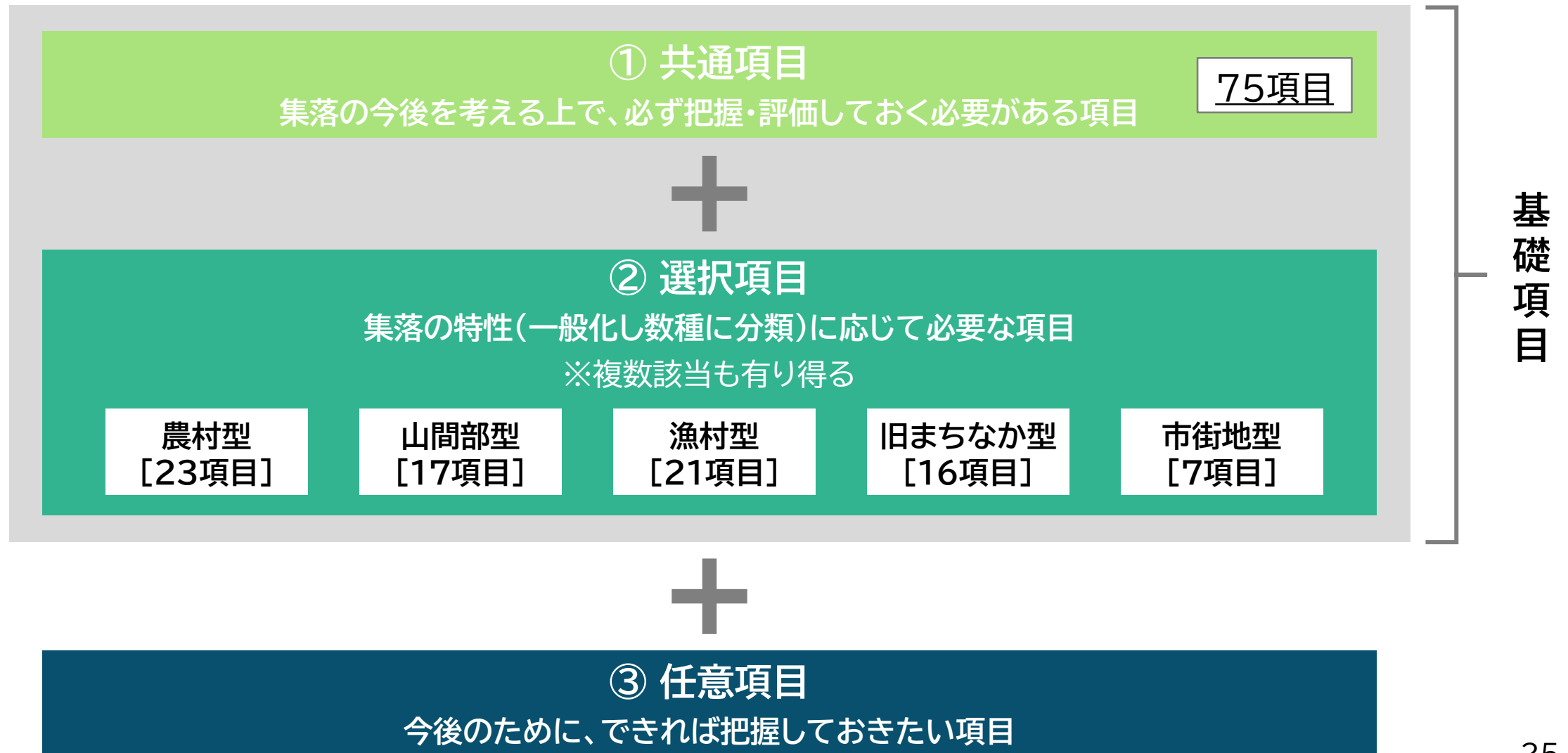
- 総会の資料などを提供してもらい、分かる範囲で記入し、不明箇所は、自治会長等にヒアリングを行います。

※ヒアリングする際は、自治会長だけでは分からないこともあります。客観性の観点も含め、複数人を対象にヒアリングを行いましょう。

※また、ヒアリングではなく、「集落基礎データ集(別添資料1-1)」を自治会長等に配布し、集落で記載いただく方法も考えられます。

● 収集(把握)するデータの設定方法 ※優先順位(段階)について

収集(把握)するデータは、下記の優先順位(段階)をもとに設定していますが、集落や地域の実情に応じて、カスタマイズして活用してください。



【 集落基礎データ集の項目一覧 】

① 共通項目

集落の今後を考える上で、必ず把握・評価しておく必要がある項目

下線部は必須
(75項目)

1/3

大項目	中項目	小項目	定量把握	情報の把握方法		カルテ (エクセル) 該当シート
				【A】集落基礎データ集	【B】集落マップ	
ひと・人口構造	人口推移 これまで10年	①総人口 ②年少人口(0-17歳) ③生産年齢人口(18-64歳) ④高齢者人口(前期高齢者 65-74歳) ⑤高齢者人口(後期高齢者 75歳-) *それぞれの割合 ⑥世帯数 ⑦世帯平均人数 ⑧75歳以上夫婦のみ世帯 ⑨75歳以上単身世帯 ⑩UIターン者 ⑪定期的に通う親族 ⑫2拠点居住者など関係人口 ⑬転出予定者	○	住基台帳	シール色・数・記入情報	①ひと
		①地区面積 ②災害情報・危険箇所 ③隣接する集落・自治会(距離・関係性) ④通院場所までの距離時間 ⑤買物場所までの距離・時間	○	行政情報(ハザードマップ)・地図情報	危険箇所 周辺との関係性	②地理歴史・施設
		①寺 ②神社 ③文化財 ④集落・自治会独自のもの	—	行政情報・地図情報	管理状況等	②地理歴史・施設
		①住宅数(痛み具合) ②空き家数(痛み具合)	○	自治会ヒア	空き家の状態	②地理歴史・施設
		①バス(本数・タイムテーブル) ②鉄道(本数・タイムテーブル) ③その他(集落の共同移送など) ④通院・買い物の手段(住民の主な手段)	○	交通事業者情報	利用状況 共同移送等	②地理歴史・施設
地理・歴史 (地域特性)	情報通信	①携帯電波状況 ②光通信環境整備状況	—	通信事業者情報	場所や範囲	—
	地域施設	①公民館／集会所(広さ・状態) ②広場・土地(広さ・状態) ③水路・側溝(距離・範囲) ④集落・自治会保有のその他資産(場所・建物・その他固定資産)	○	自治会ヒア	場所や範囲 境界	②地理歴史・施設

【 集落基礎データ集の項目一覧 】

① 共通項目

集落の今後を考える上で、必ず把握・評価しておく必要がある項目

下線部は必須
(75項目)

2/3

大項目	中項目	小項目	定量 把握	情報の把握方法		カルテ (エクセル) 該当シート
				【A】集落基礎データ集	【B】集落マップ	
共同活動・作業	寄り合い・話し合いの場	①定期的にある寄り合い・話し合いの場 例)常会・役員会 など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、 年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	伝統・文化活動	①活動項目 例)どんど焼き、互礼会・講関係・神事・地藏盆・秋祭りなど +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、 年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	環境・資産維持活動	①活動項目 例)草刈り・泥上げ・クリーン作戦・共有管理場所の清掃(寺・神社含む)・ため池管理 など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、 年間回数)	○	自治会ヒア	対象となる場所	④共同活動
	防災活動	①活動項目 例)防災訓練・消防団活動 など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、 年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	公民館活動	①活動項目 例)人権学習、生涯学習講座、交流活動など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、 年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	支え合い活動	①活動項目 例)敬老会、お茶のみサロン、健康体操、個別訪問 等 +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、 年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	体育活動	①活動項目 例)運動会、スポーツ大会、ラジオ体操など +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、 年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	活性化にむけた活動	①活動項目 例)空き家活用、特産品づくり、マルシェ、移住者受入、外部交流 等 +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、 年間回数)	○	自治会ヒア	—	④共同活動
	情報発信共有方法	①活動項目 例)放送、回覧板、電子媒体 +選択型による独自の活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、 年間回数)	○	自治会ヒア	放送拠点や 掲示板の場所 等	④共同活動
	年間活動計画	①年間活動計画(有無、具体性)	○	自治会ヒア	—	④共同活動

【 集落基礎データ集の項目一覧 】

① 共通項目

集落の今後を考える上で、必ず把握・評価しておく必要がある項目

下線部は必須
(75項目)

3/3

大項目	中項目	小項目	定量把握	情報の把握方法		カルテ (エクセル) 該当シート
				【A】集落基礎データ集	【B】集落マップ	
地域内組織・役員	組織	①自治会 ②財産区 ③公民館関係 ④寺関係 ⑤神社関係 ⑥まつり関係 ⑦防災組織 ⑧子ども関係 ⑨高齢者関係(老人会等) ⑩女性関係(女性会・婦人会等) ⑪その他選択型による独自組織	○	自治会ヒア	—	③組織役員
	隣保・組編成	①隣保・組(名称、世帯数、各隣保・組の年齢構成(特に75歳以上夫婦・75歳高齢者のみ世帯)) ②組再編の実績	○	自治会ヒア	境界や場所	③組織役員
	役職	①自治会長・区長 ②副自治会長・副区長 ③会計 ④組長・役員・評議員等 ⑤財産区長など財産関係役 ⑥公民館長・公民館主事 ⑦寺総代等寺関係役 ⑧神社総代等 神社関係役 ⑨まつり関係役 ⑩防災関係役(消防団含む) ⑪子ども会関係役職 ⑫老人会等高齢者関係役 ⑬女性会頭女性団体役 ⑭民生委員児童委員・福祉委員等福祉関係 ⑮行政から依頼役 ⑯その他選択型に応じた独自の役 ⑰地域の現リーダー(役は別として) ⑱将来のリーダー候補(役は別として)	○	自治会ヒア	—	③組織役員
参加機会	女性	①女性が複数・定例で集まる機会や場(名称、参加者数／回、年間回数、内容)	○	自治会ヒア	—	⑤その他
	若者	①若者(概ね10-40代)が複数・定例で集まる機会や場(名称、参加者数／回、年間回数、内容)	○	自治会ヒア	—	⑤その他
	外部人材 (他出者含む)	①外部人材(関係人口・他出者・専門家やアドバイザー等が複数・定例で集まる機会や場 (名称、参加者数／回、年間回数、内容)	○	自治会ヒア	—	⑤その他
組織連携	地域運営組織	①広域の地域運営組織との連携(有無、ある場合その内容)	—	自治会ヒア	—	⑤その他
	周辺組織	①周辺自治会・集落・関係組織との連携(有無、ある場合その内容)	—	自治会ヒア	—	⑤その他
資金資産	自治会費・区費	①有無 ②金額(1会員あたり・年・月ごとなど) ③免除規定 ④これまでの見直し実績	○	自治会ヒア	—	⑤その他
	固定資産・預金	①流動資産(預貯金) ※具体金額の開示ができない場合、十分・不十分など程度を確認 ②年間予算 (うち、補助金や補助金利用実績) ③固定資産(土地・建物) ※同上	○	自治会ヒア	—	—

【 集落基礎データ集の項目一覧 】

② 選択項目

集落の特性(一般化し数種に分類)に応じて必要な項目 ※複数該当も有り得る

1/2

大項目	中項目	小項目	定量把握	集落の特性					情報の把握方法		カルテ (エクセル) 該当シート
				農村型	山間部型	漁村型	旧まちなか型	市街地型	【A】 集落基礎 データ集	【B】 集落マップ	
地理・ 歴史 (地域 特性)	農林業	①農地面積 ②耕作・営農状況 ③担い手(所有者、耕作者、預け先)	○	✓	✓	△	△		農業委員会等情報	境界・状態	②地理歴史・施設
		①獣害柵設置の有無 ②距離・管理状況 ③管理者	○	✓	✓	△	△		自治会ヒア	境界・長さ・状態	②地理歴史・施設
		①森林面積 ②森林の管理者・管理状況(境界把握有無) ③担い手	○	✓	✓	△	△		行政情報	境界・状態	②地理歴史・施設
	産業	①産業別就業者数	○	✓	✓	✓	✓	✓	行政情報	—	—
		①事業所数 ②事業所の分野・業態	○	△	△	△	✓	✓	行政情報	場所	②地理歴史・施設
	観光	①観光施設	—	△	△	△	✓	✓	行政情報	場所	—
地域 施設	公共施設	①保育園・幼稚園 ②小学校 ③中学校 ④高校 ⑤その他教育施設 ⑥児童福祉施設 ⑦高齢福祉・障害福祉施設	—	△	△	△	✓	✓	行政情報	場所	②地理歴史・施設
		①役場等 ②その他行政施設	—	△	△	△	✓	✓	行政情報	場所	—
共同 活動 ・ 作業	環境維持活動	①獣害対策活動(柵点検・設置など) (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓	✓	✓	△		自治会ヒア	場所・長さ・状態	④共同活動
		①ため池管理 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓		△			自治会ヒア	場所・状態	④共同活動
		①除雪(活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓	✓	✓	△		自治会ヒア	場所	④共同活動
		①景観保全活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓	✓	✓	△		自治会ヒア	場所・状態	④共同活動

【 集落基礎データ集の項目一覧 】

② 選択項目

集落の特性(一般化し数種に分類)に応じて必要な項目 ※複数該当も有り得る

2/2

大項目	中項目	小項目	定量把握	集落の特性					情報の把握方法		カルテ (エクセル) 該当シート
				農村型	山間部型	漁村型	旧まちなか型	市街地型	【A】 集落基礎 データ集	【B】 集落マップ	
共同活動・作業	農林・漁業活動	①農業に関する共同活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	✓	✓	△	△		自治会ヒア	場所	④共同活動
		①林業に関する共同活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	△	✓	△			自治会ヒア	場所	④共同活動
		①漁業に関する共同活動 (活動主体、活動名、活動内容、参加人数 時間数、年間回数)	○	△		✓			自治会ヒア	場所	④共同活動
地域内組織・役員	組織	①農地組合・農会 ②多面的機能…組織 ③人・農地or地域計画有無	—	✓	✓	△	△		自治会ヒア	—	③組織役員
		①山・林関連の財産区等	—	△	✓	△			自治会ヒア	—	③組織役員
		①漁業・漁港管理組織等	—	△		✓			自治会ヒア	—	③組織役員
		①商店会関係組織 ②街灯組合関係組織 ③テレビ等共聴関係組織	—	△			✓	✓	自治会ヒア	—	③組織役員
	役職	①農地組合・農会長 ②多面的機能…組織長	—	✓	✓	△	△		自治会ヒア	—	③組織役員
		①山・林関連の財産区等の長	—	△	✓	△			自治会ヒア	—	③組織役員
		①漁業・漁港管理組織等の長	—	△		✓			自治会ヒア	—	③組織役員
		①商店会関係組織の長 ②街灯組合関係組織の長 ③テレビ等共聴関係組織の長	—	△			✓	✓	自治会ヒア	—	③組織役員

③ 任意項目

今後のためにできれば把握しておきたい項目

「① 共通項目」及び「② 選択項目」から、優先順位の視点で落としたものを候補に、実証時や市町との意見交換時に「追加すべき」と判断した項目、評価の参考情報的に必要な項目があれば追加します。

◆ 項目の例

- ・定性的な内容として、集落の文化的・歴史的な事柄・言葉など、集落史のような内容や組分け～行事などの慣習的ルール
- ・すでに把握している住民意見や意向(アンケートや話し合いや寄り合いの結果)
- ・将来気になること・困っていること
- ・すでに実施してきた自治会や集落の見直し(役・組織・活動など)

3.「集落マップ」の作成

準備した地図を用いて、集落内の実情を「シールを貼る」、「記載する」などにより把握します。

1 地図の選定・準備

● 種類

(株)ゼンリン社の住宅地図が扱いやすく推奨します。
農地面積等が広い場合は、農業委員会が保有する地図等を活用することも考えられます。可能な限り最新の地図を使いましょう。
シールの色が目立つように、モノクロの地図を推奨します。

● 縮尺

縮尺は1/500～1/1000の地図が扱いやすく推奨します。集落面積・住宅数・密集度・参加者の年齢等によって、適宜調整することが必要です。

● 準備する数

集落ごとに、「現在」「10年後」の2種類を作成するため、2枚必要です。

● 地図の大きさ

地図の取り回しや、「現在」「10年後」の地図を机の上で並べて見ることができるようA0～A1サイズ(模造紙程度)を推奨します。

● 事前の確認(事前に記載する内容)

市街地など建物が密集している場合、家の特定が難しく、作業に時間がかかる可能性があります。
その場合は、公共施設や住宅表札が印字されているものなど、実情に合わせて書き込んでおきましょう。
また、「集落の範囲が途切れていないか」をよく確認しておきましょう。



2 その他準備するもの

● シール(各グループで各色2シート程度)

次のページで示す各色のシール(○、☆など)を準備します。

準備した地図に貼り付けた場合、家が隠れない程度の大きさ(直径8mm~16mm)を推奨します。

● 付箋(適宜)

参加者の発言をメモするための付箋を準備します。

地図に貼ることを想定し、正方形のほか小さめの長方形型も推奨します。

● 水性マーカー(グループ数)

1グループに5色程度必要です。

油性マーカーは裏移りするため、水性マーカーを推奨します。

● 文房具類

はさみ、黒細水性ペン、マスキングテープなど。

● その他

・グループワークを行う机(長机3つを並べるなど)に、2枚の地図を並べて配置できるサイズを推奨します。

・プロジェクターが投影できるスペース、地図を貼れるホワイトボードやスペースがあれば、作成した地図を見比べやすく、発表時にも提示しやすくなります。

・会場が広い場合、人数が多い場合などは、マイクを使うことで運営がしやすくなります。



付箋



シール

3 把握する項目

① 地図に書き込む情報(「現状」と「将来:10年後」の両方)

- ☐ 世帯とその人数・年齢
- ☐ 隣保・組
- ☐ 地域施設・公共施設(公民館、集会所、水路、ため池など)
- ☐ 空き家
- ☐ 農地の管理状況
- ☐ 寺社仏閣
- ☐ 危険箇所
- ☐ 交通
- ☐ その他の情報(掲示板、防災無線の位置、携帯電波状況など) など

「ツールを活用する目的」
(例えば、集落の維持管理を話し合う
など)を達成できるように、
「把握する項目」を検討しましょう。

② 話し合いの中で確認していく項目

一地図をつくりつつ・眺めながら、以下の項目を話題にしながら、話し合う

- ☐ 現在の集落の役職・共同活動の内容など(カルテの補足)
- ☐ 将来について話し合う場・集落の行事・役職等の見直しや変更の有無・状況
- ☐ 集落で暮らして続けるために必要なこととそれらに対応し、集落で取り組んでいること
- ☐ 空き家や農地等の資産・土地利用の対応状況と意向
- ☐ その他、将来に向けて気になること・不安なこと・必要なこと
- ☐ 集落の魅力や強み など

4 作業の手順 ①

「現在」を見える化

「現在」の集落のことを「地図に見える化」します。
集落の範囲内の地図に、次の情報のシールを貼ったり、地図に書き込みます。

人世帯	18歳未満	●シール
	18歳～64歳	●シール
	65歳～74歳	●シール
	75歳以上	●シール
関係者	頻繁に帰ってきそう、通っていそうな人	☆マークを記載
隣保・組	境界線	マーカーで記入
地域施設 公共施設	場所・名称	マーカーで記入
空き家		シールが貼られない家
農地	管理や営農状況	マーカーで記入
寺社仏閣	場所・名称	マーカーで記入
危険箇所	場所・名称	マーカーで記入
交通	場所・名称	マーカーで記入
情報	場所・名称	マーカーで記入

年齢のシール区分は、必要に応じてカスタマイズして活用ください。

「共同活動が男性に偏っている(草刈り、祭り、役の見直し)」など、検討内容によっては男女を分けた方がいい場合もあります。

その場合は、男性○、女性△など工夫しましょう。

「地域の方に挨拶する」、「地域の集会に出る」など、地域活動に関わる意思がある人、交流がある人を想定しています。

農地がない場合は不要。
※「把握する項目」は事前に検討



4 作業の手順 ②

「現在」を見える化

「現在」の地図を見ながら、

- 集落の現状、
- 課題(困っていること)
- 感想や思ったこと

などを話し合いながら、付箋に書いて
地図に貼っていきます。



4 作業の手順 ③

「10年後」を見える化

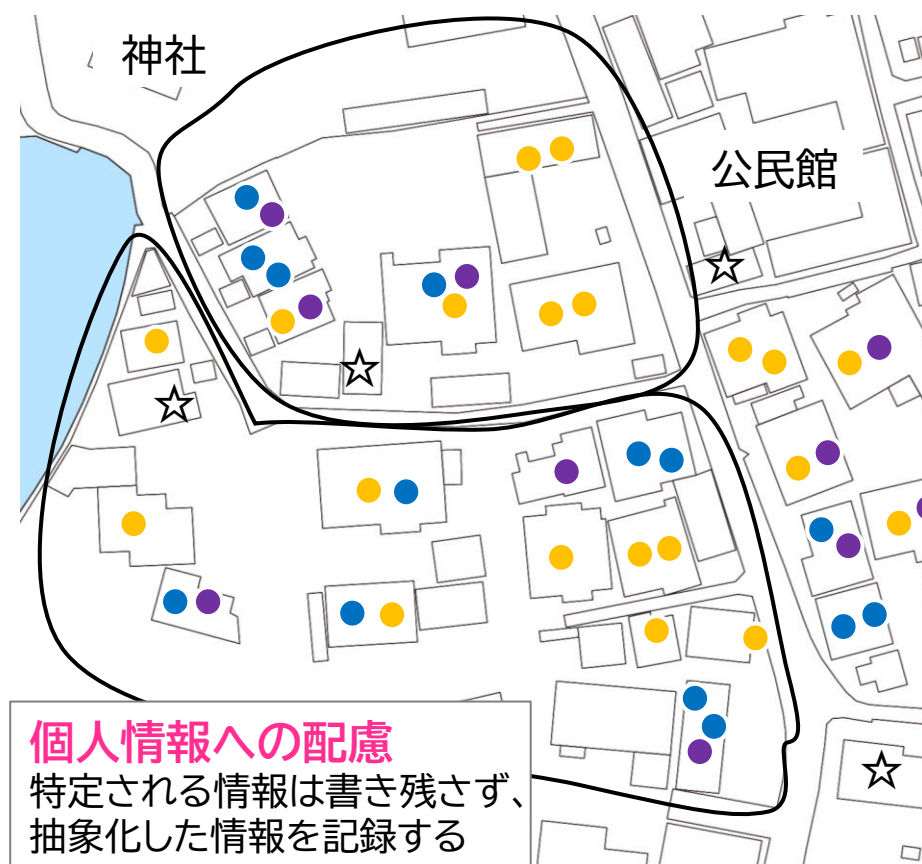
「現在」の地図を見ながら「10年後」を予測して「10年後の地図に見える化」します。
集落の範囲内の地図に、次の情報のシールを貼ったり、地図に書き込みます。

人世帯	18歳未満	●シール
	18歳～64歳	●シール
	65歳～74歳	●シール
	75歳以上	●シール
関係者	頻繁に帰ってきそう、通っていそうな人	☆マークを記載
隣保・組	境界線	マーカーで記入
地域施設 公共施設	場所・名称	マーカーで記入
空き家		シールが貼られない家
農地	管理や営農状況	マーカーで記入
寺社仏閣	場所・名称	マーカーで記入
危険箇所	場所・名称	マーカーで記入
交通	場所・名称	マーカーで記入
情報	場所・名称	マーカーで記入

現在18歳未満の住民で10年後に「大学進学」などで集落を出ていく可能性が高い場合はシールを貼りません。「地域に残る意思」がある場合は、シールを貼ります。

「10年後も亡くならないもの」としますが、集落の実情や考え方に合わせてルール(条件)を決めておくことが重要です。

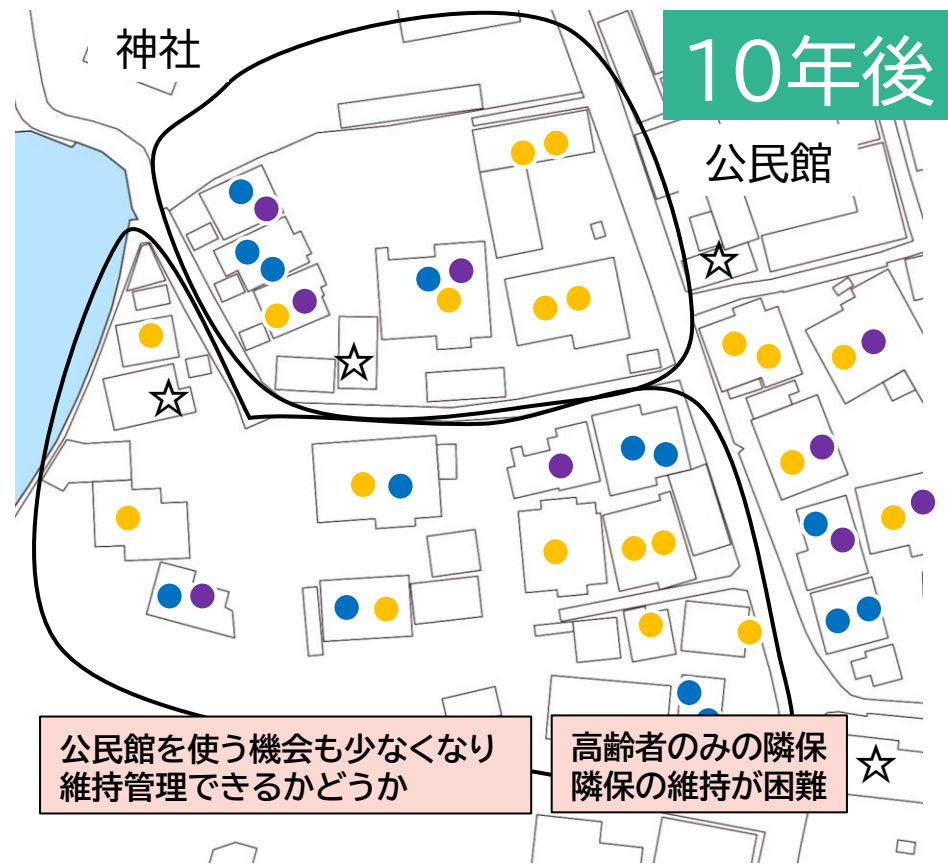
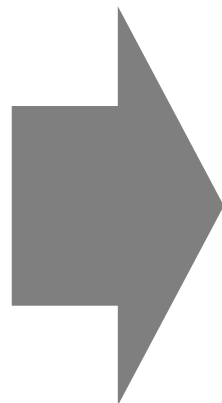
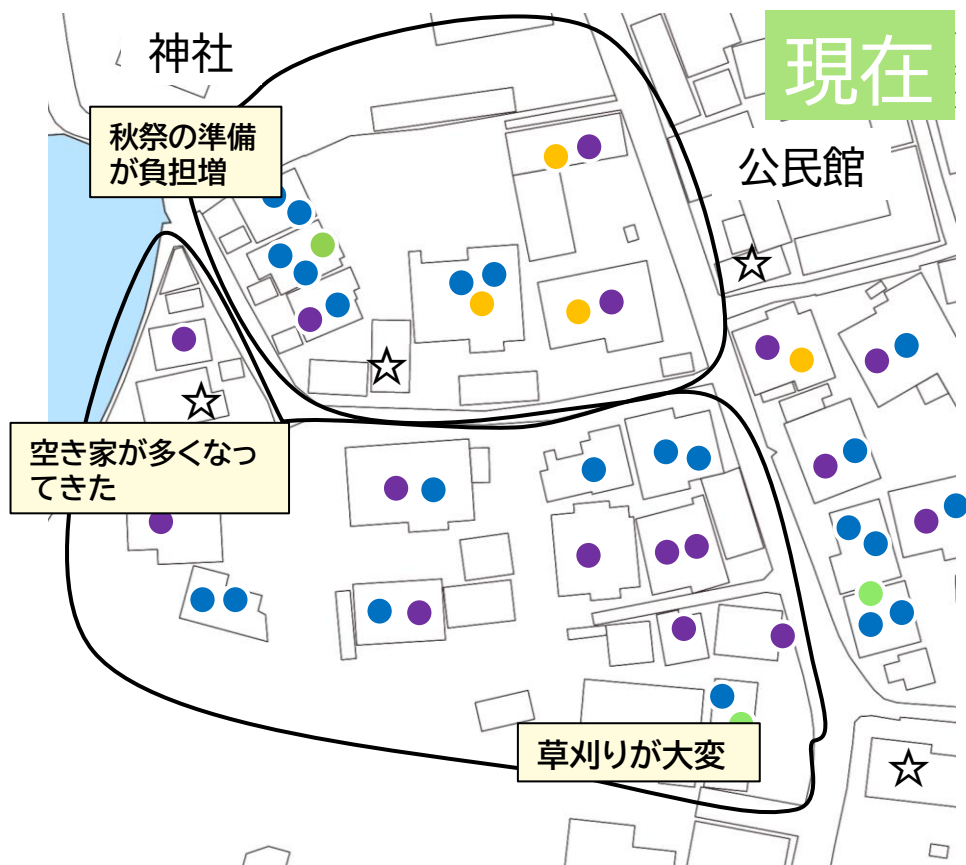
10年後



4 作業の手順 ④

「現在」と「10年後」を比較

「現在」と「10年後」の地図を見比べながら、「課題になりそうなこと」、「今後気になること」などを話し合い、付箋に書いて地図に貼っていきます。



4 作業の手順 ⑤

各グループで話し合った内容を発表します。



内容の共有の様子(南あわじ市)



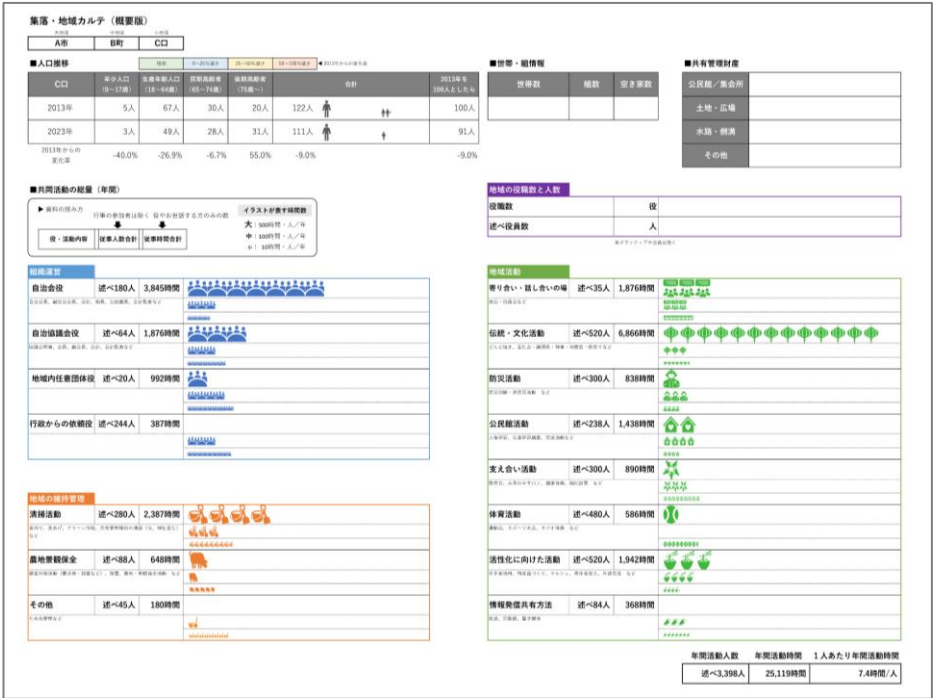
マップ作成の様子(南あわじ市)

4. 情報の一元化

作成した【A】集落基礎データ集・【B】集落マップを、取りまとめてデータ化し、情報共有ができるよう整理します。

【A】集落基礎データ集

- 集めた情報は細かい情報も含むため、共同活動の内容を抜き出しが一目でわかるように、概要版を作成します。
- また、共同活動を定量的に把握した場合(参加人数、回数、時間数を把握した場合は、年間の活動時間を算出します。



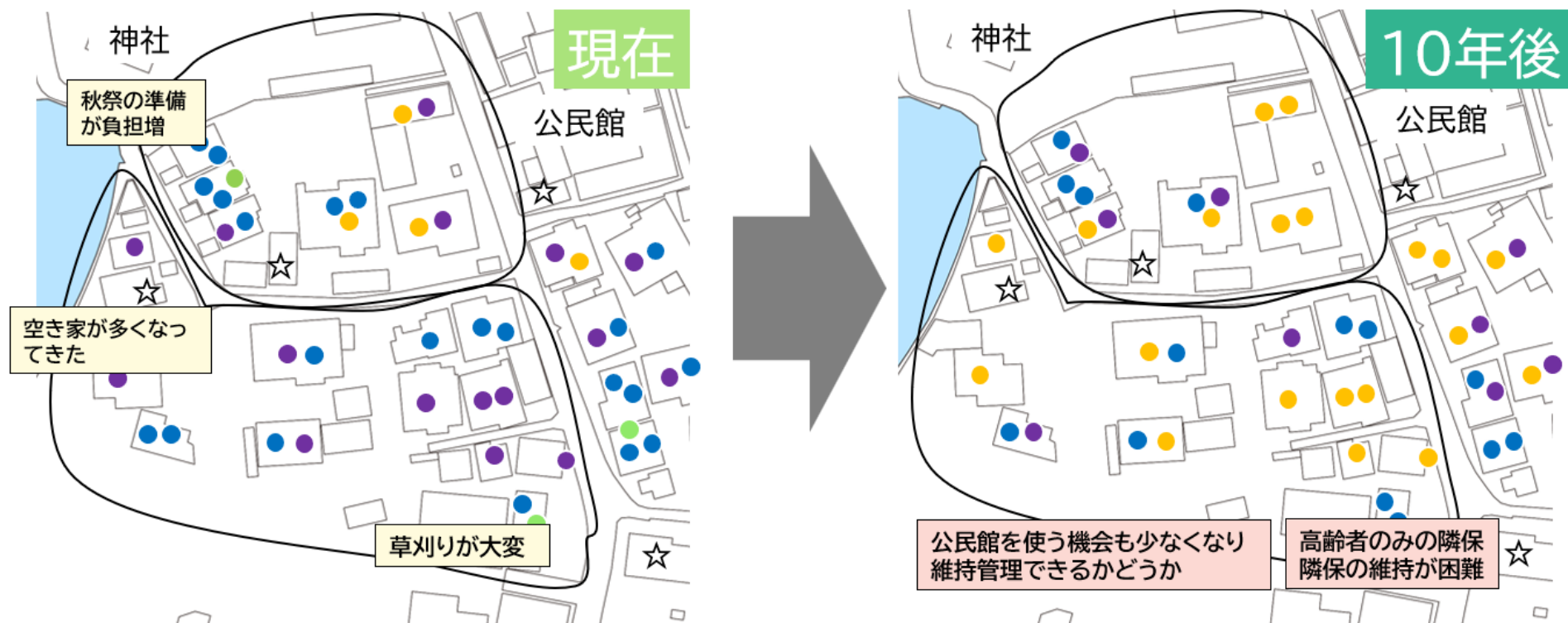
集落基礎データ集の概要版

【B】集落マップ

① 紙ベースで作成した集落マップを、扱いやすいようにデータ化します。

方法1 地図を写真に撮ってデータ化する

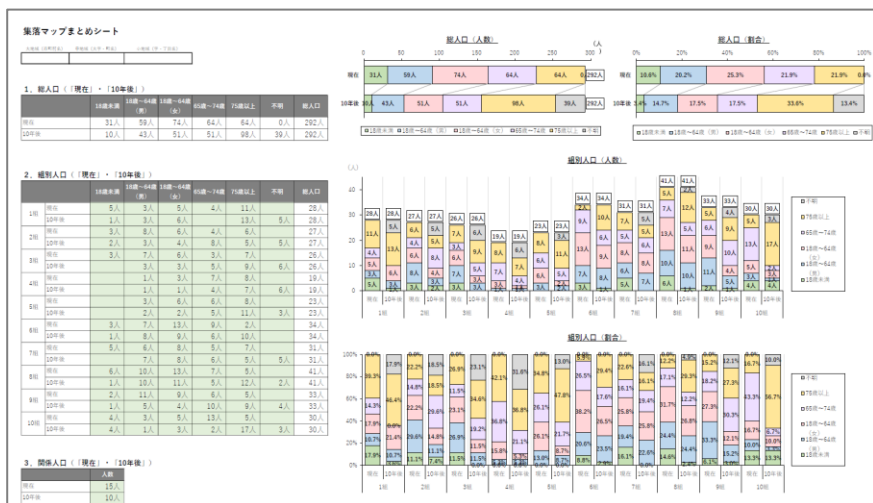
方法2 ベース図をパワーポイントに取り込み、データ上の図形で再配置する
(位置のズレ、縮尺の微妙な違いがなく見比べやすい)



【B】集落マップ

② 貼られたシールの数をカウントし、表やグラフで表現します。

【集落マップまとめシート】



グラフ化

【シールの数をカウント・数値データ化したサンプル例】



基礎データ集の概要版に入力することで、
自動で表やグラフが作成できます

【B】集落マップ

③「気になること」など地図上に記載したこと、作成中に話し合われた内容などを、テキストデータとして入力します。

	地図に貼り付けた付箋の内容(情報補足して記入)		
	いまor 10年後	カテゴリ (数字記入)	内容 カテゴリ=①現課題・②将来不安・③資源魅力・④その他
住宅地図 情報	いま	①	高齢者世帯では既にどちらも施設に入っているところがある
	いま	②	電車やバスなどの公共交通手段に乏しいのが厳しい。車が運転できるうちはいいが、子どもや高齢者が生活するには不便も多いだろう
	いま	①	雪が多いため生活に苦労する。では雪の量が全然違う
	いま	①	結婚してに出る人が多い。地元への愛着や実家の管理など思いはあっても、生活のこととの兼ね合いで考えると現実的な選択なのではないか。二拠点生活をしている人も多い。(この人はどのくらいこっちに住んでるかな…という会話がよくあった。)
	10年後	①	は広すぎて公民館まで集まるのも大変。この広さでは安否確認なども難しいのではないかな。(今でも近所のことは分かるが遠くのことは分からない。)
	10年後	①	今のままの役の数で自治会運営を続けていけるのか。日役も出役者も足りなくなるのではないかな。消防団員もなり手がなく、形骸化しつつあるように感じる。
	10年後	①	空き家が増えそうなのが改めて分かった。今でも既に管理されていない空き家があり、危険が増している。空き家の草刈りや管理をどこまで自治会でやるのかという問題もある。
	10年後	①	山の管理はできるのだろうか。特に境界線が分かっている人はもういないのではないかな。
農地地図 情報	いま	③	昔はここで保育園の芋ほりをしていたなあ、と懐かしみ、生活している近所でそういう場所があるのはよいことだと思うけど、今は子どももいないしそういう使い方もされない。
	いま	②	耕作放棄されススキが広がっているエリアがある。一部では綺麗だという声もあるが、そんなものあってもどうにもならない。
	10年後	④	中心分付近の農地は10年後も残るのではないかな。(ただし、今の耕作者が10年後も取り組んでいる、というだけの話ではあるが…。) は個人の耕作者が多く、大規模営農しているところがない。誰かできる人がいるといいのだが…(何人か名前が挙げられるが、できそうな人はいなさそうだ)
	10年後	①	ススキ畑を農地に戻すのは簡単ではない。10年後もススキ畑だろう。

10年後の私の暮らしと自治会で気になること		
他自治会 や事前ア ンケートを 見て話し 合ったこと	年齢構成の変化(後期高齢者が増える)自治会でも年齢構成が異なる	・10年後の では後期高齢者が急増、子どもはほとんどいなくなる。 に関しても市営住宅を除けば他と変わらない。 ・生産年齢人口が減少する。 ・ の高齢化が特に目立つ。
	農地の維持ができるか	・全体的に耕作放棄地は思ったよりも増えない印象。願望も込みの結果なのではないか。 ・農地については耕作者次第の部分もある。 ・10年後も営農地は維持されるだろう。プ では大きな営農組合はなく個人が多いので、どうなるか。
10年後の 私の暮らし で気になる こと	農地の管理ができるか	田畑を任せられる人がいなくなると困る。
	自治会の役は必要だが、担い手がいない	役が回ってくる。それはいいとしても次に任せられるのか心配。いつまでも続けられないといけないのではないかな。
	外へ出た子どもが戻らない、農業を継げない	子どもが地元に戻ってくるかどうか。ただ、戻ってきたとしても農業をやってくれとは言えない。
	相続の不安	相続をどうするか。
	心配はあまりしていない	私の暮らしで、ということ言えばあまり心配はしていない(現状通り)との意見が多数。
10年後の 自治会で 気になる こと	大名草の広さゆえ、安否確認が困難に	は広すぎて公民館まで集まるのも大変。この広さでは安否確認なども難しいのではないかな。(今でも近所のことは分かるが遠くのことは分からない。)
	自治会の役や日役の数など担い手が不足、形骸化	今のままの役の数で自治会運営を続けていけるのか。日役も出役者も足りなくなるのではないかな。消防団員もなり手がなく、形骸化しつつあるように感じる。
	空き家のさらなる増加への対処方法	空き家が増えそうなのが改めて分かった。今でも既に管理されていない空き家があり、危険が増している。空き家の草刈りや管理をどこまで自治会でやるのかという問題もある。
	山林の管理はできなくなる(境界が不明)	山の管理はできるのだろうか。特に境界線が分かっている人はもういないのではないかな。
新たに気づいた ことの要点	若い世代は今後も外へ出ていく	引き続き、 市内の便利の良いところに出ていく人は増えると思う。特に子育て世代。子育てのことを考えると致し方ないと思う。
	集落の維持・財産の管理を自治会で真剣に考えること	・当たり前に集落が続いていくわけではない。維持、を真剣に考えていかなければ。 ・時代や人口減少に見合った役の見直しが必要。 ・個人に依らない財産管理を行う必要がある。
	これからの必要な ことの要点	自治会の体制やり方を変える ・体制はもちろん、自治会活動の方向性や内容に関してもスリム化が必要。 ・これまでのやり方では体制が維持できない。女性の参画

例:丹波ひとまち支援機構実施地域のデータで作成したもの

(参考)集落での検証事例

南あわじ市（農村型）

朝来市（旧市街地型）

注：

南あわじ市、朝来市での検証は、2024年2月に、当時検討していたサポートツールを活用し実施したものです。
検証結果を踏まえて、サポートツールの修正等を行っており、現マニュアルで示す文言やツールとは一部異なります。
(例)本マニュアルでいう「集落基礎データ集」について、当検証時は「集落カルテ」と呼称しています

南あわじ市（農村型）

①南あわじ市におけるツール検証の狙い

- ・ 人口減少・高齢化・世帯の縮小などを背景に、
「地域の担い手がいなくなる」 ⇒ 「環境維持が困難になる」、
「伝統文化・行事の継続が困難になる」
といった将来への不安の声が、市内の多くの自治会からあがっている。
- ・ 漠然とした不安の声はあるが、具体的な対策や取り組みについての議論は
地域も行政も進んでいないのが現状。
- ・ 一方で、現在地域の担い手の主力となっている団塊の世代が今後高齢化し、
益々課題が大きくなることが想定される。



地域も行政も対策や取り組みを検討するためにも、**まずは各自治会の現状を把握することが重要。**

その上で・・・今後10年を見据える中で

【行政】 地域が直面するリアルなイメージをもつ

【地域】 地域の仕組み見直しに向けた気づきをもつ ことに繋がれば

南あわじ市（農村型）

②実施体制（主な作業に携わった人数・かかった時間）

南あわじ市（支援者側）	作業	集落
	集落カルテ	
職員1名（3時間程度） ※次回以降は1時間半程度か？	事前データ入力	総会資料、自治会長引継資料の提供
① 集落からの資料提供がなければ倍くらいかかったかも？ 職員2名（1時間）	ヒアリング	自治会代表者（副会長） 1名 集落支援員 1名
② データ不足が一部あり。カスタマイズに苦戦 職員1名（2時間）	概要版作成	—
③ 他部署へ依頼。図面の区割りに苦戦	集落マップ	一部住民から「何でこんなことせなあかんの？」という声あり。納得してもらうのに少し苦慮した。
職員2名（3時間）	地図作成	—
職員4名（4時間）	WS準備	集落での説明等 1時間
職員4名 （冒頭趣旨説明1名・ 全体進行1名・ファシリテーター2名） 社協職員2名（ファシリテーター2名） アルバイト3名 （全体支援1名・ファシリテーター2名）	WS当日 準備：1時間 本番：1時間40分	3テーブル（3つのエリア） 住民15名

※検証結果を踏まえて、ツールの修正等を行いました

南あわじ市（農村型）

③支援者としてツールを活用した感想

良かったこと	【いい意味で深刻になり過ぎずに・・・】 ・カルテ作成を通して、集落と対話 ・マップ作成を通して、10年後集落の姿がリアルに ・職員が現場でスキルアップ
苦勞したこと	・マップの準備（集落を3エリア【隣保】に分割） ・集落への説明【何故この取り組みが必要なのか】 ・全体進行（3テーブルの進捗管理、雰囲気づくり）
活用にあたり工夫したこと	・カルテ作成の効率化（集落へ事前資料提供依頼） ・マップ作成のポイントを絞る（人の変化にスポット）
活用にあたり注意すべき点	・行政支援者との目的、目標共有 ・ワークショップ当日はもとより、次の段階の支援を見据えた外部支援者（地域再生AD）との連携

※検証結果を踏まえて、ツールの修正等を行いました

南あわじ市（農村型）

④活用効果

Q 地域住民の反応は？（取組前と取組後）

A 10年後を見据えた中で、「動き出さないといけない」とい機運は集落で生まれつつある。

取組前・・・何でこんなことせなあかんの？

取組後・・・取組には覚悟も必要。集落として取り組むの？

一方で、「では、どこから手をつける？」「次は何をする？」という集落の疑問に答えれていない状況が課題。

Q 支援者（行政側）のねらいが達成できたか

A 「良かったこと」に記載のとおり、**ねらいは一定達成できた。**

【行政】 地域が直面するリアルなイメージをもつ

【地域】 地域の仕組み見直しに向けた気づきをもつ

支援側(行政、社協)の職員にとっても現場経験を通じて**スキルアップ**が図れた。（**自信も生まれた**）



南あわじ市（農村型）

⑤他市町へのメッセージ

- ・「自治会統合・隣保再編」「役員体制や活動見直し」
「行政からの依頼事項整理」「地域のあて職整理」
今後10年で、集落（自治会）から行政に対しての支援要請、
要望の声は益々多くなってくると思います。
- ・いずれにせよ、各集落の現状や将来の姿を、集落との対話を通じて把握することが重要となってきます。
今回のツールは、そういった意味で支援者（行政職員等）が集落とコミュニケーションをとるのに有効と感じました。
- ・しかし、現場（集落）での話し合い支援を進めるには、集落に伴走する外部支援者（地域再生アドバイザーなど）との連携が重要になってくると感じました。

今後の、ひょうご多自然地域づくりネットワーク会議に期待！！

朝来市（旧市街地型）

①朝来市におけるツール検証の狙い

- ・朝来市では、来年度「地域コミュニティの在り方懇話会」を設置し、地域コミュニティの在り方について検討する予定にしている。
- ・懇話会の準備として、今年度小規模集落及び地域自治協議会を対象としたヒアリングを実施し、課題を整理している。
- ・他方で、小規模集落に限らずまちなかの区が連携して自治を担っている区においても、人口減少等による地域の課題が出てくる可能性がある。
- ・今後、将来に向けた話し合い、取り組みが必要であるという認識のもと、まちなかの住民の方にも地域の現状と将来を認識し共有していただくため、今回ヒアリングを実施した。

朝来市（旧市街地型）

②実施体制（主な作業に携わった人数・かかった時間）

朝来市（支援者側）	作業	4 区
	集落カルテ	
職員1名（1 時間程度）職員	事前データ入力	区長 4 名（数時間～数日）
アルパック 1 名（7 時間） ※区長記入内容の確認	ヒアリング	区長 4 名
・市職員1名（2 時間程度） ・アルパック 1 名（3 時間程度） ※区からの情報量による	概要版作成	—
	集落マップ	
職員 3 名（1 時間）	地図作成	当該行政区出身の職員に区の境界を確認した。
職員 2 名（1 時間）	WS準備	—
職員 6 名 （全体進行等 2 名・ファシリテーター 4 名） アルパック 3 名 （全体支援 1 名・ファシリテーター 2 名）	WS当日 （2 時間）	住民 2 3 名

※検証結果を踏まえて、ツールの修正等を行いました

朝来市（旧市街地型）

③支援者としてツールを活用した感想

良かったこと

- ・ 10年後には黄色のシールが多くなり、地区の維持がますます困難になることが視覚的に共有できた
- ・ 今回のWSに関わったことにより地域についての理解を深めることができた

苦勞したこと

- ・ カルテ概要版の数量を示すイラストの貼り付け作業に時間を要した
- ・ 家の枠組みだけが示された地図であったため、誰の家なのかを特定するのに時間がかかった
- ・ アパートの住人の年齢がわからなかった

活用にあたり工夫したこと

- ・ 世帯ごとにシールを貼ることで効率が良くなった
- ・ 区で作製した地図を持参することにより、地図へのシール貼りをスムーズに進めることができた

活用にあたり注意すべき点

- ・ 時間調整や聞き取り方などファシリテーターとしての能力が必要
- ・ 集落の規模が大きくなると作業が大変である
- ・ 概要版はパワポではなくエクセルのほうがよい（職場環境）

※検証結果を踏まえて、ツールの修正等を行いました

朝来市（旧市街地型）

④活用効果

○支援者（行政側）のねらいが達成できたか

- ・住民の方に現状と10年後の状況について考えていただく良い機会となった
- ・今回のWSに関わったことにより、地域についての理解を深めることができた（地域担当職員）

○地域住民の側の反応

- ・10年後には黄色のシールが多くなり地区の維持がますます困難になることが視覚的に共有できた
- ・空き家や空き店舗の状況について、話し合うことができた
- ・区内の情報を共有する良い機会であったが、その情報をどこまで共有していいものかが曖昧である

朝来市（旧市街地型）

⑤他市町へのメッセージ

【良い点】

- ・ 集落の現状等を把握するには良いツール
- ・ WSは住民の方の情報共有や今後のまちづくりに関する意識の醸成には有効

【課題等】

- ・ 集落数にもよるが、集落カルテの作成にある程度の時間と労力が必要
- ・ 集落カルテ等について、自治体等でどのように活用していくかを研究する必要がある